

# 広島大学 学術情報リポジトリ

ーリポジトリ立ち上げの経験をもとにー



広島大学図書館 学術情報整備グループ  
学術情報リポジトリ担当 上田大輔

# 立ち上げまでの流れ

2004.11	全学の学術情報の利用と発信の検討を行うWGの発足
2005.4	図書館内における検討委員会の設置
2005.5	機関リポジトリ設置の提言(広島大学における学術情報のアーカイブ化と発信に関するWG報告書)
2005.7	大学全体の方針を協議する「企画会議」での了承
2005.8~ 2006.3	公開準備作業 システム調達・学内合意形成・コンテンツ収集
2006.4	試験公開
2006.10	本公開

# 予算の獲得

## 平成17年度

- ・学長裁量経費
- ・NII 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業  
委託事業費

## 平成18年度

- ・NII 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業  
委託事業費



# 体制の整備

## 電子図書館構築・整備委員会 (2005.4～)

- 図書館職員7名
- 学内合意形成班・システム調達班・コンテンツ収集班

## コンテンツ収集専任チーム(2005.12～2006.3)

- 中央図書館2名＋各分館1名の合計5名
- 研究者に代わってコンテンツを探し・集め・登録する

## 機関リポジトリ専任主担当の設置(2006.4～)

- 主査1名＋グループ員1名



# 学内合意形成

## 大学としての認知

- 2005.7 大学全体の方針を協議する「企画会議」  
で了承。

## 研究者への説明

1. 学内諸会議で発言
2. 各研究科長を訪問し、個別に協力依頼
3. 部局別説明会
4. 地区別説明会(キャンパスごと)

→ 説明会は約30回、参加人数は約500人



# システム構成

- Dell PowerEdge2850, 3GHz Intel Xeon, 2MB Intel E7520 チップセット
- メモリ: 2GB(4\*500MR)
- ハードディスク: RAID5, 36GB HDD3台
- バックアップ装置: DAT72内蔵テープドライブ (36GB/72GB)
- FD, オプティカルドライブ内蔵
- OS: Miracle Linux Standard Edition V3.0



# ソフトウェア

- CMS社 E-repository
  - 研究者によるセルフアーカイブ機能
  - 管理者によるメタデータ付与機能
  
- カスタマイズ
  - 学内認証システムとの連携
  - XML形式のエクスポート機能
  - Googleへのインデックス機能

# 初期コンテンツ収集

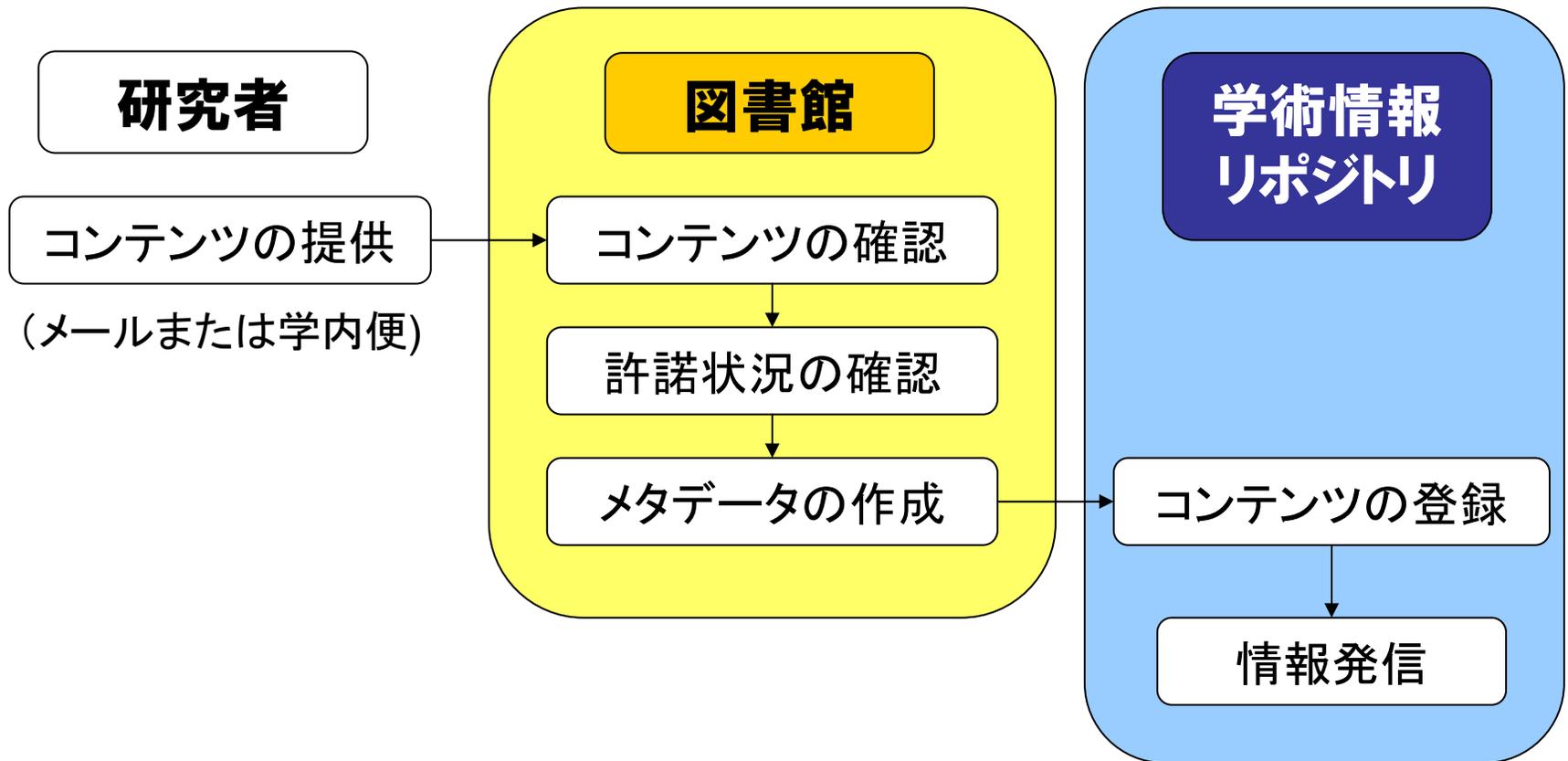
- 広報資料
  - チラシ・パンフレットの作成
  - 学術情報リポジトリ準備サイトの作成
- コンテンツの収集
  - メールによる営業
  - 研究室を訪問して個別交渉
  - 文献データベースでの論文調査
  - 紀要編集委員会へ許諾交渉
  - NIIの紀要全文データ

# 収集対象コンテンツ

- 学術雑誌掲載論文
- 学内刊行物(紀要等)
- プレプリント
- 単行書
- 教材
- 学位論文・修士論文・卒業論文
- 会議録・講演資料・プレゼン資料
- 科研費報告書・プロジェクト報告書
- コレクション etc...

広島大学でなければ  
集められない文献の収集を!!

# 登録の流れ



# 許諾確認作業

- 海外出版社・学会

SHERPA :セルフアーカイビングまとめサイト

<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php>

- 国内学協会

著作権の取扱いに関するアンケート(結果速報)

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/ir/>

学会のウェブページや各雑誌の投稿規程  
許諾状況がわからなければ、個別に確認



# 登録状況

学術雑誌論文	474
学内刊行物(紀要等)	1,022
学位論文	32
修士論文/卒業論文	3
プレプリント	9
会議録・講演資料	53
プレゼンテーション資料	12
科研費報告書	5
テクニカルレポート/ワーキングペーパー	1
単行書	18
単行書の章	7
電子教材	14
コレクションー教科書	5,596

(H18.9.22現在)



# コンテンツ収集の経験から

## 雑誌論文の著者原稿と別刷

- 海外出版社の多くが許諾しているのは**著者原稿**。
- 研究者が自分で保存しているのはほとんど**別刷**。

→最初の説明を徹底するか、業績リストを予め調べ、この版なら登録できるのでくださいと言う方が親切。  
登録不可と返却すると、研究者の温度も下がる。

## 国内学会や出版社へのコンタクト

- セルフアーカイブの方針が決まっていないところが多い。
- 個別にコンタクトをすれば、認めてくれるところも多い。

広島大学の個別交渉状況(2006年9月現在)  
国内97機関 (可 **52** 否 3 保留 16 未回答 26)



# 継続的なコンテンツ収集

- 学内発行物の電子化支援
  - － 紀要等の電子ジャーナル化を支援。
  - － 電子出版システムの開発。
- 学位論文の包括的な収集
  - － 学位論文提出時にファイルも提出をしてもらうように各研究科長に依頼。
- 業績データベースとの連携
  - － 広島大学経営戦略データウェアハウス構想
  - － リポジトリ登録データを業績データベースへ流用



# 特色あるコンテンツ収集

- 平和学リポジトリ

平和学に関連した資料を重点的に収集する。

- ・SIPRI Yearbook 2006 日本語版
- ・IPSHU研究報告シリーズ
- ・Discussion Paper
- ・平和学関連セミナー・シンポジウム資料
- ・平和学関連講義資料 etc・・・



# 地域共同リポジトリ

- 参加館の拡大(コンテンツの増加)がリポジトリの発展には重要
- 自前でシステムを構築できない機関もコンテンツの登録ができれば。
- 幹事館がシステムを管理。
- 参加館は自機関のコンテンツを登録。
  
- 勉強会からスタート。
- とりあえず広島県内の大学さん どうですか？



# 今後の課題

- インターフェース
  - 散乱しているデジタルコンテンツの器として
  - 主題ポータルや電子出版
  - 研究成果のショウウィンドウ
- 長期保存
  - 永続的なアクセスの保障
  - 恒久的な保存
- 研究者を知る
  - 研究行動・発表媒体・投稿過程
  - 研究者のメリットとは？